

第3章

淡路市の歴史文化の特徴

概要

- ・本市の歴史文化は、次の7つのテーマに整理される。
 - ①「記紀」と国生み神話
 - ②海運と軍略の要衝
 - ③景勝地への来訪
 - ④御食国^{みけつくに}
 - ⑤ものづくり
 - ⑥祈りと信仰
 - ⑦大地の胎動と防災
- ・本市の歴史文化は、「海」と「陸」を基盤として広がる豊かな自然環境を背景に繰り広げられる人々の営みにより創り上げられてきた固有の歴史文化であるといえる。
- ・このような本市の歴史文化を一言でいうと、「海（うみ）と陸（おか）をつむぐ営みの歴史文化」と表現できる。

本市の歴史文化は、先史からの時代区分を縦軸に、国生み神話から始まる政治の動向、流通・交易を通じた他地域との交流、生活・生業・産業などの営み、信仰や祭、地史や自然災害などを横軸としてマトリックスで見ると、次の7つのテーマに整理される（図3-1）。

- ①「記紀」と国生み神話：国生み神話をはじめとした「古事記」「日本書紀」にまつわり、かつての中央政権とのつながりを示す歴史文化
- ②海運と軍略の要衝：瀬戸内海を介した浦や港、古代から近代に至る軍略の要衝としての歴史文化
- ③景勝地への来訪：海と陸とが創り出す美しい風景、古くから多くの人々が訪れて数多くの詩歌が詠まれてきた歴史文化
- ④御食国^{みけつくに}：古くから海の幸に恵まれた古代の「御食国」。その後も、漁業・農業を中心とした第一次産業が人々の生活を支えてきた。
- ⑤ものづくり：古くからの鉄器生産遺跡をはじめとしたものづくりの歴史文化
- ⑥祈りと信仰：巨石信仰や戎信仰に係る神社や巡礼の霊場、檀尻の出る様々な祭礼・行事などの歴史文化
- ⑦大地の胎動と防災：美しく豊かな自然風景をつくりだす大地と大規模災害からの防災に係る歴史文化

それぞれのテーマに関する詳細は巻末資料に掲載している。

時代区分	政治	他地域との交流（流通・交易）	営み（生活・生業・産業）	信仰・祭り	地史・自然災害						
原始	旧石器時代	①「記紀」と国生み神話	【人々の営みの開始】 【漁撈・狩猟・採集の開始】	【縄文人の祈り】	【神戸層群（若狭層）の形成】 【大阪層群の形成】 【淡路島（古淡路）による淡路島の隆起】 【氷河時代による海岸線の後退】 【温暖化による海面の上昇】 【海面上昇による現在の美しい海岸線の形成】						
	縄文時代		【列島各地との交流】			【水田稲作の開始】 【定住による遺跡の増加】					
	弥生時代		【交流によるモノの動き】			【巨石信仰】 【農作を祈った青銅器祭祀】					
古代	古墳時代	②海運と軍略の要衝	【御食国】 【男狭磯の伝説】	【農作を祈った青銅器祭祀】	【白鳳南海地震】						
	飛鳥時代		【淡路国との統治】			【高地への移住】 【塩づくりのはじまり】 【鉄器の生産】					
	奈良時代		【善木の伝説】 【古代寺院の造営】 【中央政権とのつながり】 【古事記・日本書紀】 【配流の地】			【淡路の海人】 【網漁】 【水田稲作の大規模化】 【塩の大規模生産】					
中世	平安時代	③景勝地への来訪	【平氏一族的の来島（『平家物語』）】	④御食国	⑤ものづくり						
	鎌倉時代		【淡路の設置】 【平氏の敗走】			【糸里制】	⑥祈りと信仰	⑦大地の胎動と防災			
	南北朝時代		【平氏とのつながり】			【荘園の増加】			【社寺・仏像等】		
室町時代	【細川氏の支配と国人衆の割拠】 【三好氏による淡路支配】	【足利尊氏の来島】 【浦の大型化と廻船化】	【新古今の詩歌】 【藤原定家の歌集】 【後醍醐天皇の「夫木」】	【鎌倉仏教の遺跡】	【仁和寺】 【康和南】 【正平南】						
近世	安土桃山時代	②海運と軍略の要衝	【徳田・毛利の海戦】 【信長・秀吉による淡路平定】	④御食国	⑤ものづくり	⑥祈りと信仰	⑦大地の胎動と防災				
	江戸時代		【徳島藩・徳川幕府による支配】 【徳島藩による海峡警備の強化】					【徳島藩・徳川幕府による支配】 【徳島藩による海峡警備の強化】	【徳島藩による海峡警備の強化】	【徳島藩による海峡警備の強化】	【徳島藩による海峡警備の強化】
	明治時代		【徳島藩一室東兵庫庫】					【徳島藩による海峡警備の強化】	【徳島藩による海峡警備の強化】	【徳島藩による海峡警備の強化】	【徳島藩による海峡警備の強化】
近代・現代	大正時代	②海運と軍略の要衝	【東浦・西浦航路の開説】	④御食国	⑤ものづくり	⑥祈りと信仰	⑦大地の胎動と防災				
	昭和時代		【津名・淡路・北淡・一宮・東浦の5町体制】 【過疎化や自然破壊の進行】					【井上通泰の詩歌】 【司馬遼太郎の「葉の花の沖」など】	【水産加工業の展開】	【昭南海地震】	
	平成時代		【淡路公園鳥構想】 【淡路市の誕生】 【環境立島「公園島淡路」】					【明石海峡大橋・神戸淡路鳴門自動車道の開通】 【定期航路の大半の廃止】	【観光都市としての展開】	【水産加工業の展開】	【昭南海地震】 【阪神・淡路大震災と震災からの復興】 【淡路島地震】

図3-1 淡路市の歴史文化の特徴を表す7つのテーマ

これらの7つのテーマは、それぞれが、本市の周囲を取り囲む「海」と、それらが創り出してきた「島（陸）」としての固有の環境のもとに、中央政権をはじめとした他地域との密接な関わりを受けながら、人々が築き上げてきた本市ならではの歴史文化の特徴であるといえる。

「海」との関係は、^{あま}海人が語り伝えた物語が起源との説もある国生み神話ゆかりの地とされるとともに、古代には御食国に位置付けられ、その後の漁業や農業の発展を促してきた。そして、それらは、わが国の古くからの自然崇拜思想と相俟って「国生み」や「海」、「大地（陸）」との関係を表す特徴的な信仰を今に伝えている。また、白砂青松に象徴されるように、「海」と「陸」とが交わり、創り上げられてきた景勝地は、古来より多くの人々が訪れ、詩歌等の対象となってきた。さらに、畿内と西国との間に位置するという立地的特徴から、軍略の要衝としての役割を担うとともに、「海」と「陸」とが創り上げる環境は、海運や交易の要衝としての発展を促し、製塩・鉄器生産遺跡をはじめ、現在の瓦産業などにつながる「ものづくり」の地として展開してきた。一方で、美しい自然風景をつくり上げてきた大地の胎動は、時に、震災という形で甚大な被害を与えてきたが、人々はこの地で幾度となく復興を果たしてきた。そして、このような歴史のもとに育まれてきた歴史文化遺産を積極的に活かし、新たな展開・活動の糧にしてきた。以上のことから、本市の歴史文化は、「海」と「陸」を基盤として広がる豊かな自然環境を背景に繰り広げられる生業や産業、海運や軍略、信仰や祭礼行事などの人々の「営み」が、相互に有機的に関係しあいながら一体的な環境をつむぐことによって創り上げられてきた固有の歴史文化であるといえる。

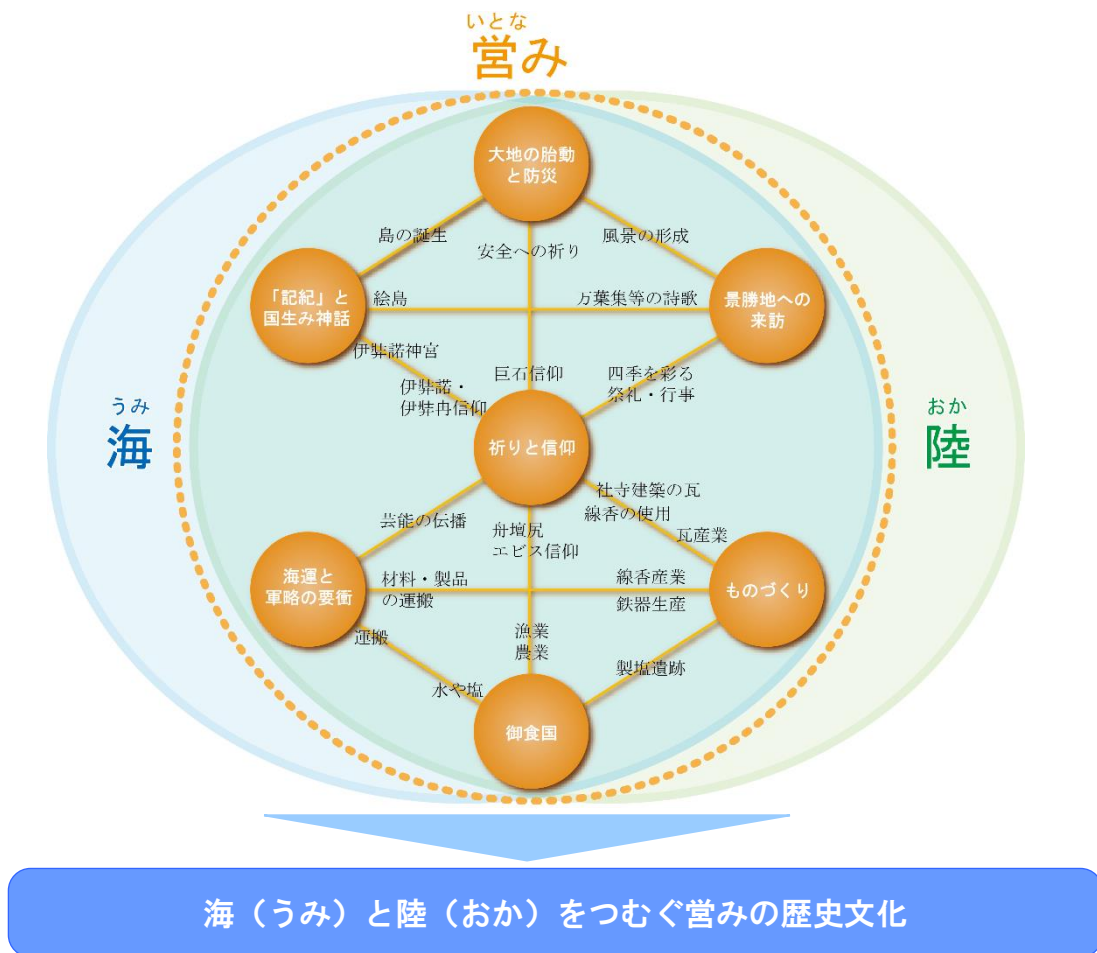


図 3-2 淡路市の歴史文化の特徴

